

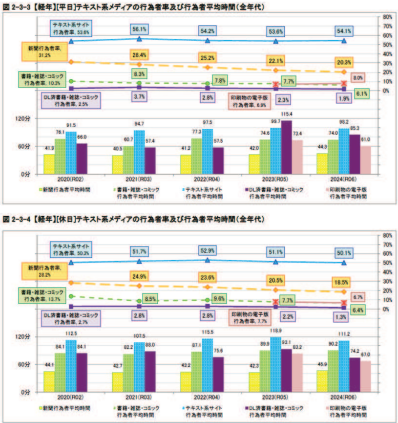
第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム
2026.03.05

変わりゆく図書館と変わらないもの

佐藤翔（同志社大学）



<https://researchmap.jp/min2fly/>



出典：総務省 令和6年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 報告書

図 6-1-1 【令和6年度】目的別利用メディア（最も利用するメディア）（全年代）

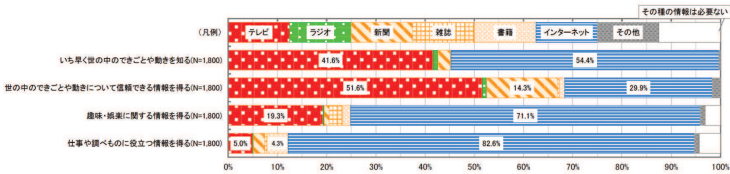
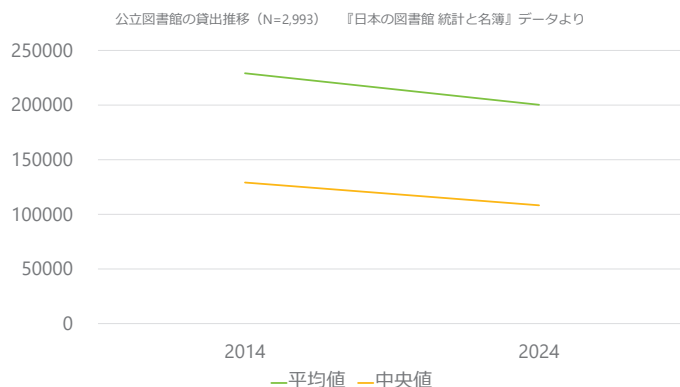


表 6-1-1 【令和6年度】目的別利用メディア（最も利用するメディア）（全年代）

	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	書籍	インターネット	その他	その種の情報は必要ない
いち早く世の中のできごとや動きを知る(N=1,800)	41.6%	1.1%	2.4%	0.2%	0.1%	54.4%	0.3%	
世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る(N=1,800)	51.6%	0.9%	14.3%	0.3%	1.2%	29.9%	1.7%	
趣味・娯楽に関する情報を得る(N=1,800)	19.3%	0.2%	1.1%	2.7%	1.6%	71.1%	1.0%	3.1%
仕事や調べものに役立つ情報を得る(N=1,800)	5.0%	0.2%	2.3%	0.4%	4.3%	82.6%	1.0%	4.3%

図書館利用率

貸出

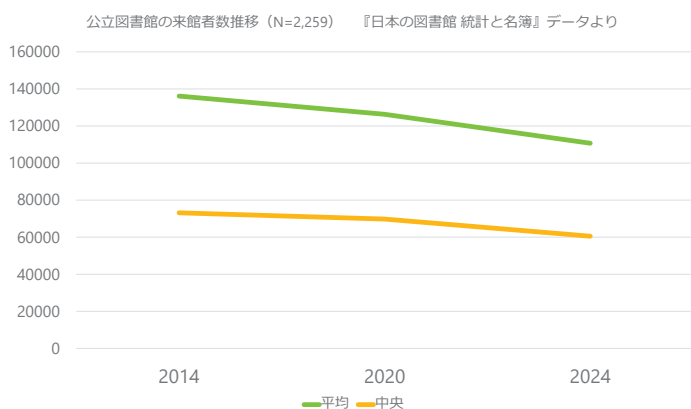


2014⇒2024の貸出変化

- 貸出数が増えた図書館：717館 (24%)
 - 平均1.8倍、中央値1.2倍
- 貸出数が減った図書館：2,276館 (76%)
 - 平均0.75倍、中央値も0.77倍 (23～25%減)
- 一部の凄く増えた図書館、多くのかなり減った図書館
 - 岐阜市8倍、野々市市6倍、塩尻市5倍、石川県立4倍……

9

来館



2014⇒2024の来館者数変化

- 来館者数が増えた図書館：441館
 - 平均2.2倍、中央値1.4倍
- 来館者数が減った図書館：1,818館
 - 平均も中央値も約0.7倍 (30%減)
- 一部の凄く増えた図書館、多くのかなり減った図書館
 - 高梁市18倍、多賀城市9倍、須賀川市9倍、瀬戸内市7倍、都城市6倍…

12

利用像の変化：総合的に

- 貸出×来館の結果を重ね合わせると？
 - － 来館の方が減少ペースが激しい
 - － 新館以外で来館が増える例はわずかだが、貸出は増えることも
- ヘビーユーザはゆるやかに減る or 維持しつつ、ライトユーザが全体的に離れている？
- 図書館はより一部の人のためのものになりつつある
- しかもその一部も全体的には減少傾向である

13

なぜそんなことに？

- 人々の情報行動の変化
- 築年数による魅力減少？
 - － 同志社大学の学生と分析……新築時のみ来館者数増効果
 - － 経年に伴って徐々に魅力が失われる？
- 人口減少・利用者のボリュームゾーンである子どもの減少
- 新規ボリュームゾーンとしたかった高齢者が戻らない
- etc……

14

2014⇒2024の来館者数変化

- 来館者数が増えた図書館：441館
 - － 平均2.2倍、中央値1.4倍
- 来館者数が減った図書館：1,818館
 - － 平均も中央値も約0.7倍（30%減）
- 一部の凄く増えた図書館、多くのかなり減った図書館
 - － 高梁市18倍、多賀城市9倍、須賀川市9倍、瀬戸内市7倍、都城市6倍…

15



<https://www.web.nhk.tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/YMN2RLGRL2>

変わりゆく図書館？

- 人が集まる・居場所になる・にぎやかな図書館
 - － 集客力を意識した空間
 - － 複合施設／出かける先・滞在先となる
 - － 飲食・交流・遊び・課題解決（様々な情報提供……）
- 従来通りの図書館との二極化？
 - － 魅力的な図書館のある街／「ふつうの」図書館しかない街？

17

図書館は変わろうとしている？

変わる前は？ そもそも図書館とは

『図書館の公的供給』

- 大場博幸. 図書館の公的供給：使命・利用者・利用料. 樹村房, 2025, 283p.
- 図書館を公的に供給する理論的根拠の話を中心に、現在の利用者についてや利用料の問題等を扱う単著の論文集
- 「そもそも図書館とは？ その役割とは？」を考える参考に

20

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

21

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する：うまくいかない？（実は図書館では実現しない）
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

22

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する：居場所としての図書館の背景

23

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない：古典的、大場は支持
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

24



<https://www.web.nhk.tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/YMN2RLGRL2>

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

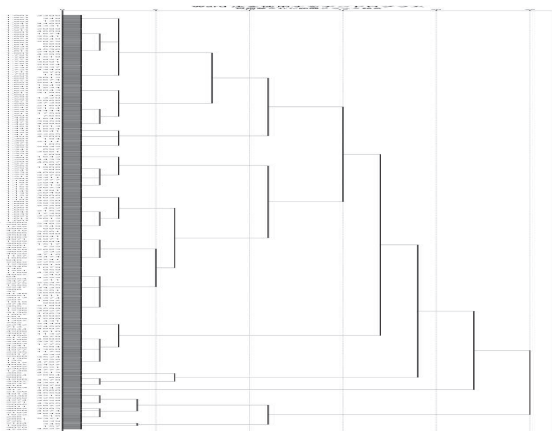
26

変わろうという先に
未来はあるのか？

図書館利用・意識のクラスター分析

- データに基いてボトムアップに分類する
- 回答の類似度から、似た回答者をまとめる
- ある程度のまとまりを1グループとみなす

28



NDL調査

図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査（令和元年度）

国立国会図書館では、令和元年度「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」を実施し、調査により得られたデータを公開した。

・調査の概要

調査の目的は、図書館を利用していない人々も含めた情報行動の傾向及び図書館に関する意識について把握し、主に、図書館の立地、各図書館及び図書館情報科学研究所等へ今後の図書館の在り方の検討に関する基礎的な情報を提供することである。

調査の内容は、情報行動の傾向、公共図書館の利用状況、公共図書館への意識の三つを柱としている。質問項目は全45問である。

調査の企画は国立国会図書館情報科学研究所が担当した。アンケート設計にあたっては、当該が平成26年度に実施した「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」をベースとし、両部社大先許員候補センターとの連携基盤構築にアトビイスを実施した。

アンケート実施にあたっては、株式会社クロス・マーケティングがオンライン調査を実施した。調査対象は20歳以上の日本在住者とし、居住地のモニタリングを実施した。調査の結果は、令和元年度の平均3月1日現在の調査実施後の人口に基き、11の地域（性別、年代）で区別した比率が反映するよう割り付けを行った。調査期間は令和元年9月6日（金）から9月10日（月）まで、有効サンプル数は5,000名である。なお、調査手法としてオンライン調査を採用したことから、本調査の調査票には一定の偏りが存在する。

・調査結果の利用について

国立国会図書館 調査情報

「調査」に関する各サイトの記事

調査研究レポート「東日本大震災と図書館」

国立国会図書館 東日本大震災復興支援ページ

地震・災害 関連情報（レファレンス協同データベース）

各地の図書館等の被災復興等について（外部リンク）

twitterでの情報提供を行っています。

https://twitter.com/ndl_a_tweet

メニュー

・このサイトについて

・検索の方法

・サイトの更新履歴

「カレントアウェアネス-R」新着記事

・カレントアウェアネス-R（CARE）：オープンアクセスに関する情報掲載 - 2019-11-20

・東京・横浜に拠点を置く東京大学（大田区）の新聞 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

・国営の機関・個人 - 2019-11-20

https://current.ndl.go.jp/FY2019_research

30

NDL調査2020：公共図書館利用

- 過去1年間に公共図書館を・・・
- 利用者**：1670人（約33％）
- 利用希望者**：915人（約18％）
- 非利用者**：2,415人（約48％）

利用者クラスタ2020

- 1. 「読書家」：1,055人
- 2. 「ふつうの利用者」：312人
- 3. 「子どもの付き添い」：111人
- 4. 「意識の高い若者」：104人
- 5. 「パワーユーザ」：80人
- 6. 「その他」

「読書家」

- 1,055人が所属（圧倒的最大のクラスタ）
- 利用頻度：週1以上：13％、月1以上：48％
- 主な利用目的は「貸出」で他は低調**
- 読書量第2位。趣味は読書で、その他もコンテンツ消費系の趣味を持つ
- 図書館の重要性を強く認識し、現在の図書館に満足**

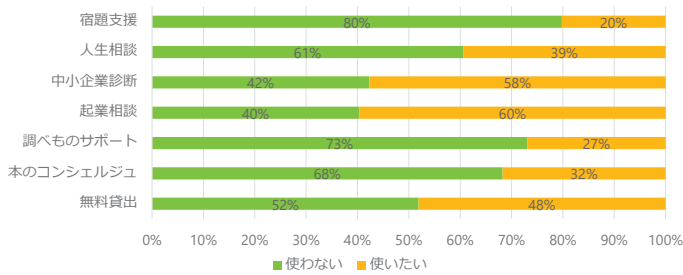
「パワーユーザ」

- 80人が所属（その他を除く最小規模）
- 利用頻度：週1以上：15％、月1以上：46％
- 「貸出」目的利用は「読書家」に劣るが、その他のあらゆるサービスを最もよく利用している**
- 読書量も多く、多趣味で、文化的アクティビティも高い
- 図書館への期待も高く、重要性を強く認識している一方、現状の図書館に満足もしていない**

「意識の高い若者」

- 104人が所属（中規模クラスタ）
- 平均年齢30代（他はすべて40代以上）。20-30代が中心
- 利用頻度：週1以上：10％、月1以上：48％
- 主な利用目的は貸出だが、勉強場所・仕事場所としての利用が他クラスタをはるかに凌ぐ**
- 図書館一般への関心は意外に高いが、「地域にとって」という視点はない。図書館よりも「地域」に関心がない
- 多趣味、多読、文化的アクティビティも高い。
- コロナ後「以前より図書館を使う」と思っている数も他を圧倒

意識の高い若者・サービス



利用者クラスタ2020

- 1. 「読書家」：1,055人
- 2. 「ふつうの利用者」：312人
- 3. 「子どもの付き添い」：111人
- 4. 「意識の高い若者」：104人
- 5. 「パワーユーザ」：80人
- 6. 「その他」

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない：古典的、大場は支持
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

読書習慣と功利主義的図書館の役割

- 読書には様々な穏やかな正の効果がある
 - －猪原敬介. 読書効果の科学：読書の”穏やかな”力を活かす3原則. 京都大学学術出版会, 2024, 276p.
- そうした読書習慣の獲得に図書館が寄与できるなら、功利主義的役割を果たせていると言える

町村の総合計画における図書館に期待される機能・役割

カテゴリ/コード	普及自治体数	普及率
I住民の基盤	106	76.3%
I-1住民のニーズ	61	43.9%
I-2住民の評価	84	60.4%
I-3住民の利用姿勢	51	36.7%
II図書館の運営基盤	111	79.9%
II-1図書館の運営のための施設・人材	82	59.0%
II-2図書館の資源	93	66.9%
III図書館サービス	90	64.7%
III-1貸出	33	23.7%
III-2レファレンス	18	12.9%
III-3遠隔地のサービス網	21	15.1%
III-4集会	67	48.2%
IV読書	85	61.2%
IV-1読書の推進	48	34.5%
IV-2読書環境	17	12.2%
IV-3読書事業	30	21.6%
IV-4子供の読書	72	51.8%
V学習	46	33.1%
V-1学習の支援	33	23.7%
V-2住民の学習意欲	23	16.5%
VI文化	34	24.5%
VI-1文化の支援	30	21.6%
VI-2地域の文化	5	3.6%
VI-3歴史	9	6.5%
VII生涯学習	71	51.1%
VII-1生涯学習	60	43.2%
VII-2社会教育	23	16.5%

利用者クラスタ2020

- 1. 「読書家」：1,055人
- 2. 「ふつうの利用者」：312人
- 3. 「子どもの付き添い」：111人
- 4. 「意識の高い若者」：104人
- 5. 「パワーユーザ」：80人

ではなく

非利用者クラスタ2020

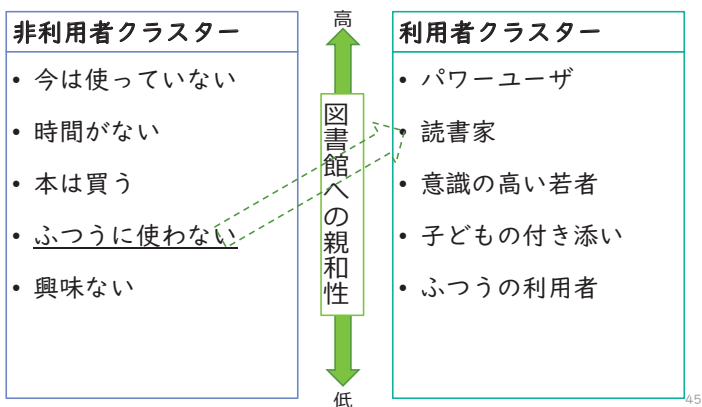
1. 「ふつうに使わない」：972人
2. 「興味ない」：588人
3. 「今は使っていない」：512人
4. 「本は買う」：226人
5. 「時間がない」：81人
6. 「その他」

43

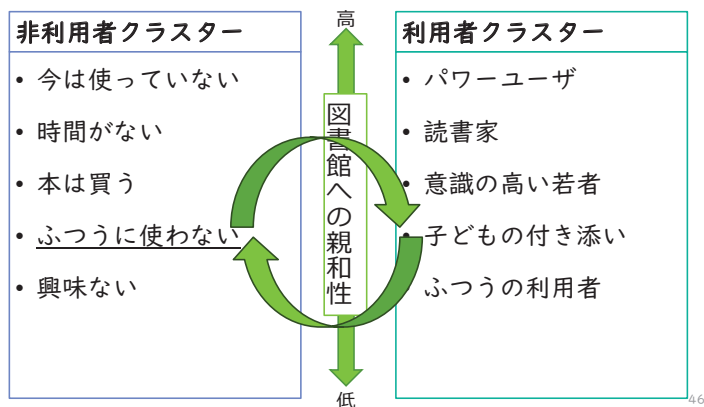
「ふつうに使わない」

- 972人。最大勢力
- 「興味ない」ほど無関心ではないが積極的関心はない
- 使わない理由も色々でどれかが突出はしない
- 図書館は地域に好影響があり、大事な施設である
- しかし以前ほど重要ではないし、閉館も自分に影響はない

44



45



46



<https://www.web.nhk.tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/YMN2RLGR12>

それで大人が
読書をするの？

たぶんしない

しかし人
(例えば子供) を
連れてくる

両親の読書習慣と図書館に連れて行ってもらっていたか		あなたは本を読むことが好きですか？		クロス表
		はい	いいえ	合計
両親の読書習慣と図書館に連れて行ってもらっていたか	両親は読んでいるが図書館に連れて行ってもらっていない	度数 148	48	196
	両親の読書習慣と図書館に連れて行ってもらっていたか の %	75.5%	24.5%	100.0%
	両親は読んでいて図書館に連れて行ってくれる	度数 79	8	87
	両親の読書習慣と図書館に連れて行ってもらっていたか の %	90.8%	9.2%	100.0%
	両親は読んでおらず図書館にも連れて行ってくれない	度数 207	280	487
	両親の読書習慣と図書館に連れて行ってもらっていたか の %	42.5%	57.5%	100.0%
合計	両親は読んでいないが図書館に連れて行ってくれる	度数 38	11	49
	両親の読書習慣と図書館に連れて行ってもらっていたか の %	77.6%	22.4%	100.0%
		度数 472	347	819
		57.6%	42.4%	100.0%



<https://www.web.nhk.tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/YMN2RLGRL2>

「集まる場所」としての図書館

- クリネンパーク, エリック. 集まる場所が必要だ. 藤原朝子訳. 英治出版, 2021, 352p.
- 図書館等の「集まる」社会インフラがある地域は熱波災害時の死亡率が（貧困地区でも）低い
- 平時でも図書館等の存在は死亡リスクの軽減につながる
 - 現代の死亡リスクの大きな要因は「孤独」
- 図書館の存在が社会的つながりを生む
 - 「居場所としての図書館」自体の功利主義的側面
- 公民館じゃだめなん？

53

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

54

変わりゆく図書館と 変わらないもの



<https://www.web.nhk.tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/YMN2RLGRL2>

図書館の公的供給の理論的根拠

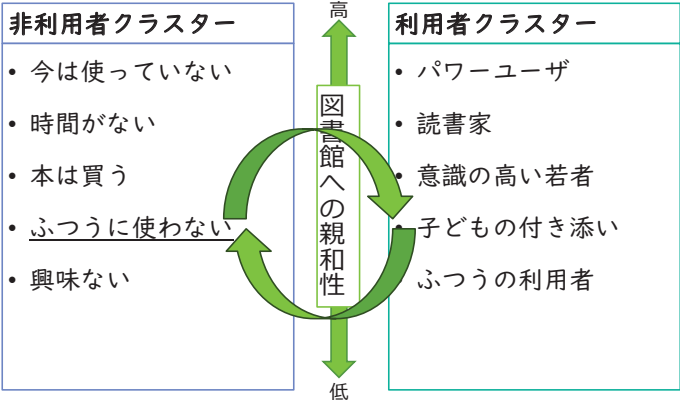
- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

57

図書館の公的供給の理論的根拠

- 功利主義的：支出に見合う社会に対する便益があるが、市場（民間）ではうまく供給できない
- 自由主義的：自由な情報へのアクセスという、個人の権利を保障する
- 本質主義的：民主主義、共同体、公共圏などの優先すべき価値に図書館は奉仕する

58



59

出典・参考文献

- 令和6年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査。総務省, 2025. https://www.soumu.go.jp/main_content/001017241.pdf, (2026-02-25 参照).
- クローズアップ現代 利用者急増! “にぎやかな図書館” のヒミツ. 2025-10-14放送. <https://www.web.nhk.tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/YMN2RLGRL2>, (2026-02-25 参照).
- 大場博幸. 図書館の公的供給：使命・利用者・利用料. 樹村房, 2025, 283p.
- 佐藤翔. 図書館を学問する. 青弓社, 2024, 176p.
- 猪原敬介. 読書効果の科学：読書の”穏やかな”力を活かす3原則. 京都大学学術出版会, 2024, 276p.
- 佐藤聡子. 公立図書館を設置する町村の総合計画における図書館の機能・役割の記述. 日本図書館情報学会誌, 2026, 掲載予定.
- 佐藤翔. 10年で10%利用登録率を増やすように言われたら？. ライブラリー・リソース・ガイド. 2024, no.48, p.125-136.
- クリネンバーグ, エリック. 集まる場所が必要だ. 藤原朝子訳. 英治出版, 2021, 352p.

60

min2fly@slis.doshisha.ac.jp

shsato@mail.doshisha.ac.jp

